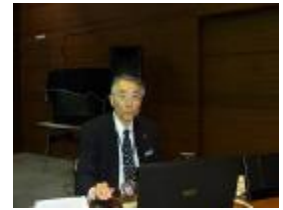


第5回幼・保・小合同研修会



と き 平成30年11月22日(木)午後3時～午後4時40分

ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室

木村吉彦教授

教育講演「幼児期の学びと小学一年生の学びをつなぐ接続期カリキュラム」 講 師 上越教育大学大学院 教授 木村 吉彦 氏

- ◇「幼児期の学びと小学一年生の学びをつなぐ接続期カリキュラム」について、幼児期から児童期にかけての子どもの発達状態を踏まえ、小学校への滑らかな適応を促し、様々な視点から望ましい接続・交流を図るために大切なことについて、上越教育大学大学院教授、木村吉彦氏よりご講演いただいた。



【講演内容】

- アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム（接続期カリキュラム）について、長野県茅野市の実践例を映像で紹介いただいた。（1時間目：なかよしタイム～遊びの要素を取り入れる。じゃんけん列車⇔2時間目：学校探検で2年生と交流～楽器を探そう）
遊びの要素を取り入れる＝**自己肯定感**を高める→「明日も学校へ行きたい」等登校意欲が高まる。
- インクルーシブ教育・・・支援の必要な子どもと対等な立場で経験する。
小学校では、一文字から学んでいく。（し・つ・くなど）
- 様々な経験が教科に結びついていく。（ひらがなが読める＝国語、時計の見方＝算数、仮説検証法思考力（バッタの捕まえ方）＝理科など）遊びによってどのような学びに通じるかを捉える。
例) 砂遊び・・・目標：川を作る・山を作る～3歳児と5歳児と一緒に活動することで、3歳児はことばを獲得し、コミュニケーション力が高まる。～社会性につながり、人間関係力につながる。「相手意識に基づく社会性」
- 小学校における**生活習慣**を見据えて、ルールやマナーを意識させる。
例) 他のクラスに迷惑を掛けないように廊下は静かに歩きましょう。
- 小学校のスタートは0からのスタートではない。幼児教育では遊びを通して様々な資質・能力を身につけている。～内なる課題への対応力を遊びを通してつくる。
- 小学校では、「外からの課題」から「内なる課題」（子どもたちがやってみたい活動）を見出す単元開発が大事。
例) アサガオの種を数える・・・10個ずつ数えることに気付いた子がいた。→算数の「大きな数の数え方」に結びついた。
- 幼児教育と小学校教育の違い
 - ①目的
 - ②方法
 - ③評価
- ①幼児教育・・・育てたい子ども像＝子どもを育てる方向性ー運動好きな子どもを育てる。
小学校教育・・・「なわとび名人カード」＝50回以上跳ぶ＝到達目標

②幼児教育は環境を通して行う：物的・人的環境

小学校の生活科は間接教育中心で直接教育（指示・命令）も入る。

③評価＝子ども理解 幼児教育も小学校教育も絶対評価が基本。

評価基準の前提（絶対評価の考え方）・個人内評価（徹底した絶対評価）

※ 子どもの伸びを認めて評価することが基本

○アプローチカリキュラム（5歳児の10月～3月までの6ヶ月間）

生活リズムを変える・・・お昼寝をしない、昼食開始の時間、椅子に座って話を聞く

小学校に幼児が呼ばれて一緒に遊ぶ体験・一日入学

※ educate＝すべては子どもたちのために・・・「引き出しを開ける」

子どもの思いや願い・興味関心・意欲・好奇心・探究心・自己表現力等々

これら全て子どもの持つ可能性を引き出してあげる。

※ **Teacher もいいけど Educator をめざしましょう！！**

【アンケート】

○生活習慣を整えることによって子どもたちが小学校生活を楽しめるということが再確認できた。

○遊びの中で様々な経験をさせ、視野を広げてあげたい。

○どのようなことにポイントを置いて子どもたちと接していけばよいかを学ぶことができた。

○小学校との生活リズムの違いに気付くことができ大変勉強になった。

○子どもたちのために“可能性を引き出す保育”をして行きたい。

○幼児教育における工夫、小学校教育における工夫、それぞれ必要であることを学ぶことができた。

○アプローチカリキュラムの大切さを改めて学ぶことができた。今回学んだことを意識し、取り入れて保育していきたい。

○アプローチ・スタートカリキュラムの接続は毎年少しずつ良くなり、子どもが楽しいと感じていると思う。今日のビデオから5教科の全てに繋がったことが読み取れ刺激を受けた。

○「子どもの持つ可能性を引き出してあげるのが教師の役割」という言葉が印象に残った。

○遊びからいろいろな学習に繋がること、先生が全て指示するのではなく子ども主体でいろいろと活動の幅を広げていくことが大事だと分かった。

○幼稚園や保育園でやっていたことを小学校に行っても行うことで連携を図り、子どもたちが小学校へ行く楽しみに繋ぐことができることが分かった。

○「間接目標」について、とても大切なことだと感じ、取り入れて行きたいと思った。

○事例をあげてのお話でとても解りやすく聞きやすかった。

○幼稚園・保育所でも小学校に向けてアプローチカリキュラムに沿って頑張っていきたい。

○「教育」というと、教えるというイメージが強く、教科書中心の学習なのではないかと感じていたが、子どもの姿を良く見て工夫しながら可能性を引き出すことが大切だと改めて実感した。小学校以降に繋がる力を培うと共に、小学校での学びを理解し、連携ができるような役割を担えたらよいと感じた。

○5歳児の保育の仕方を再検討していきたい。

○自園の保育と共通部分があり自信へと繋がった。教えていただいた educate を目指しこれからの保育を楽しみに子どもたちと関わっていきたい。

○遊びを通して子どもの自己肯定感を高め、主体性を引き出す関わりを意識し小学校へ送り出すことができるようにしたいと思った。

○インクルーシブ教育について知り、映像を見て素晴らしいと感じた。

○幼児教育で培ってきた資質・能力を踏まえて、間接教育を実践していくことが必要だと学ぶことができた。

○子どもの意欲を引き出し、内なる課題を設定できる教師になりたいと思った。

○「小学校の子どもたちは0からのスタートではない」という言葉が心に残った。

○実践できるアプローチの方法や活動例についてももう少し知りたかった。